



Change and Innovation
Create New Value

企業価値向上への取組み

住友化学株式会社

2018年3月27日

 **SUMITOMO CHEMICAL**

代表取締役専務執行役員
野崎 邦夫

- 会社概要
- 企業価値向上に向けた戦略的投資プロジェクト
- 次の100年に向けた経営基盤づくり
- 成長戦略への回帰
- 住友化学の価値創造



会社概要

住友化学の現状

社長

十倉 雅和

設立

創業 1913年

開業 1915年

従業員

32,536人(2017年3月末)

関係会社

連結子会社 170社

持分法適用関連会社 37社

売上高

22,100億円(2017年度見込み)

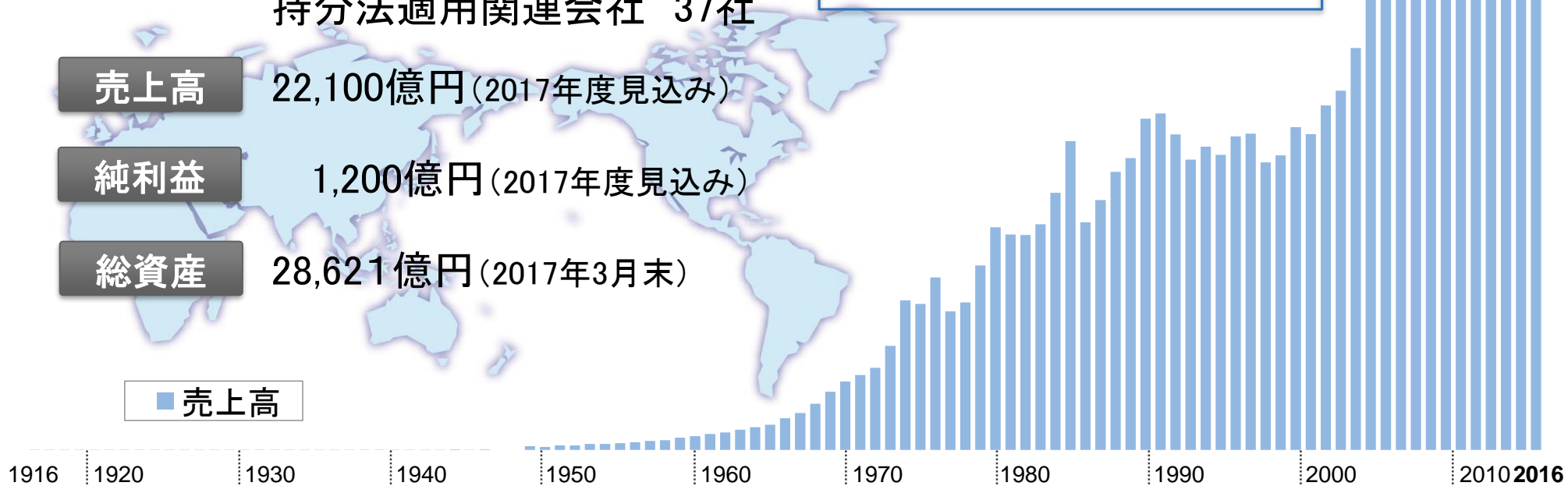
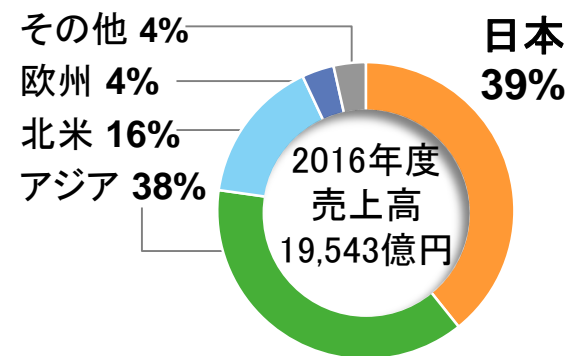
純利益

1,200億円(2017年度見込み)

総資産

28,621億円(2017年3月末)

地域別売上高比率



(連単) 1978年度以降:連結 1977年以前:単独

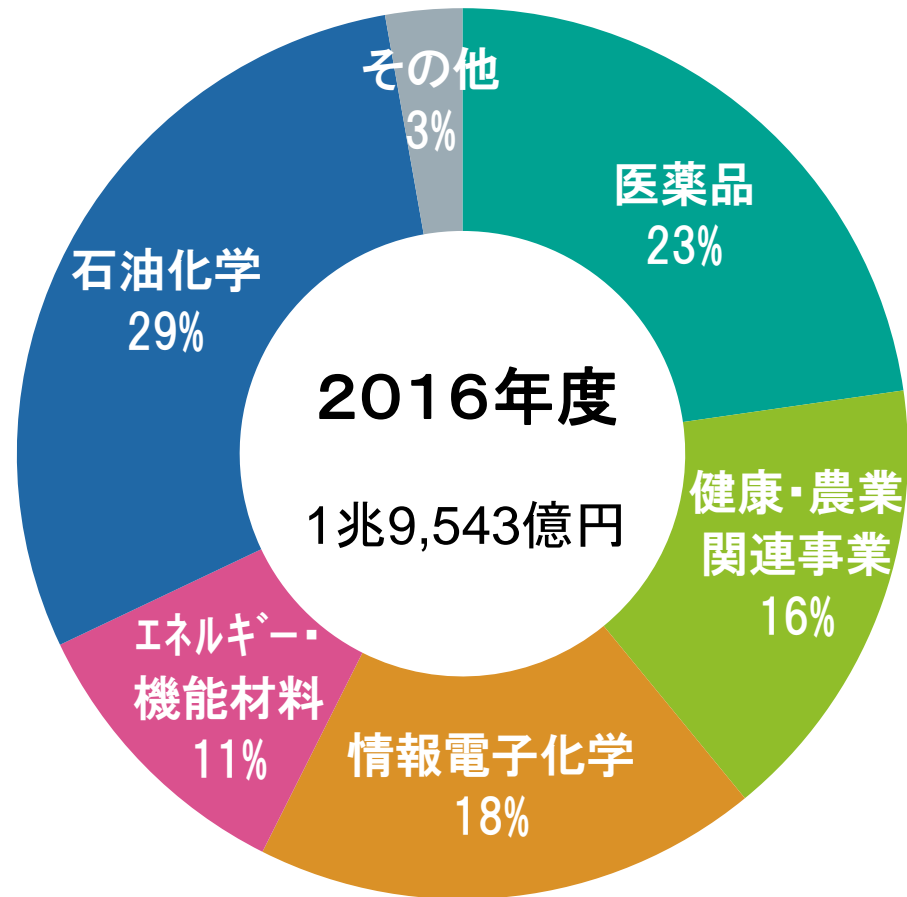
5つの事業部門をもつ総合化学メーカー



ポリエチレンなどの
多様な石油化学製品



電池材料（セパレータ）



医療用医薬品



農業用殺菌剤・殺虫剤



液晶関連部材

持続的成長の実現

当社が中長期的に目指す姿

以下を安定的に達成

ROE
10%以上

ROI
7%以上

D/Eレシオ
0.7倍程度

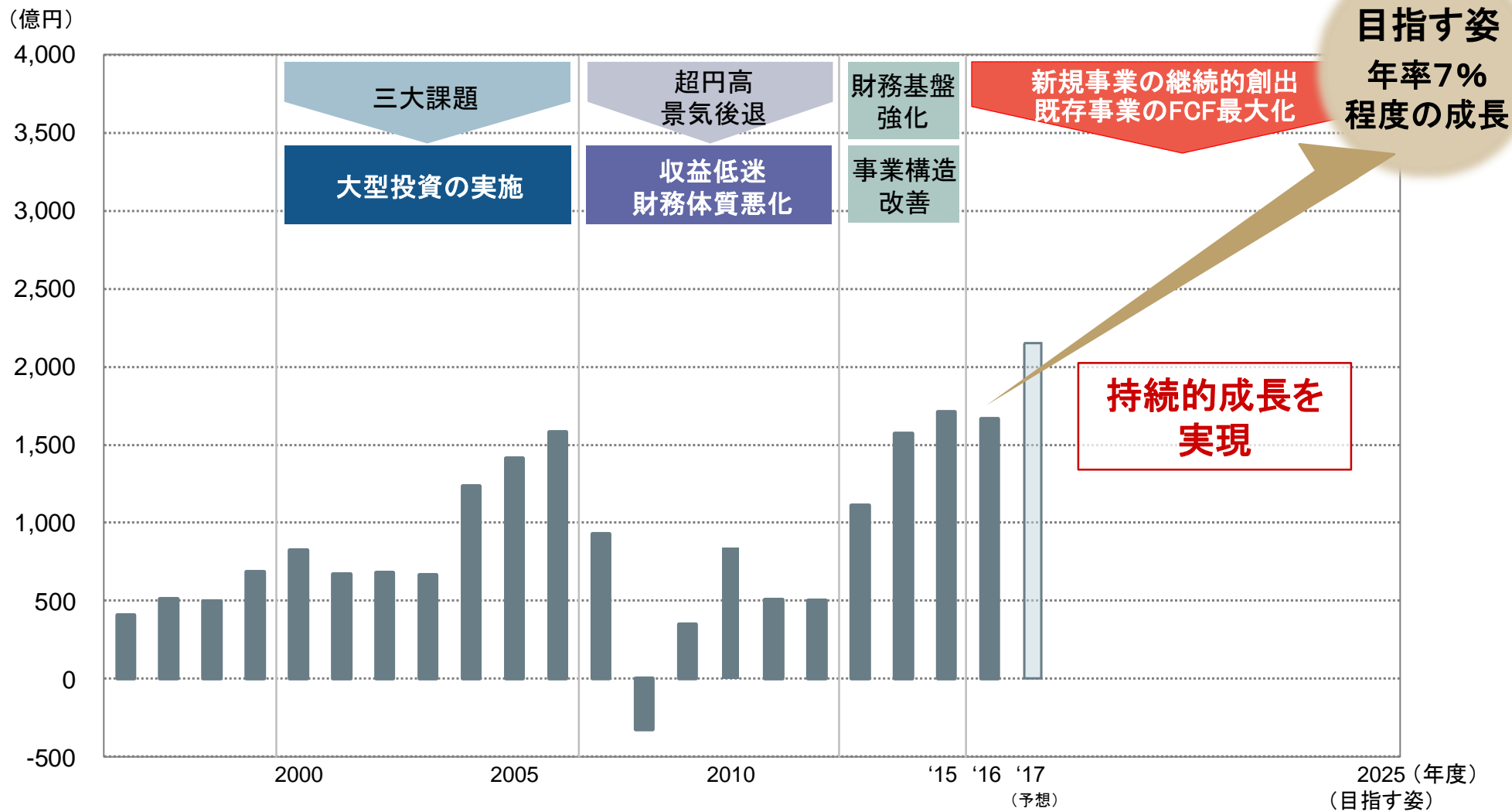
配当性向
30%程度

利益成長
年7%以上

持続的成長を続ける、レジリエントな住友化学へ

10年後に目指す姿

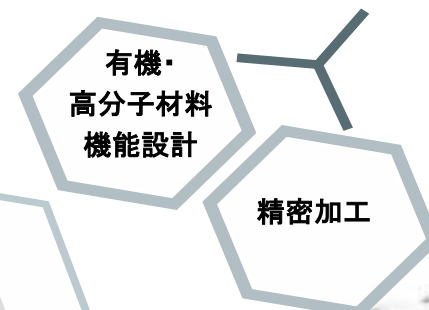
経常利益の推移



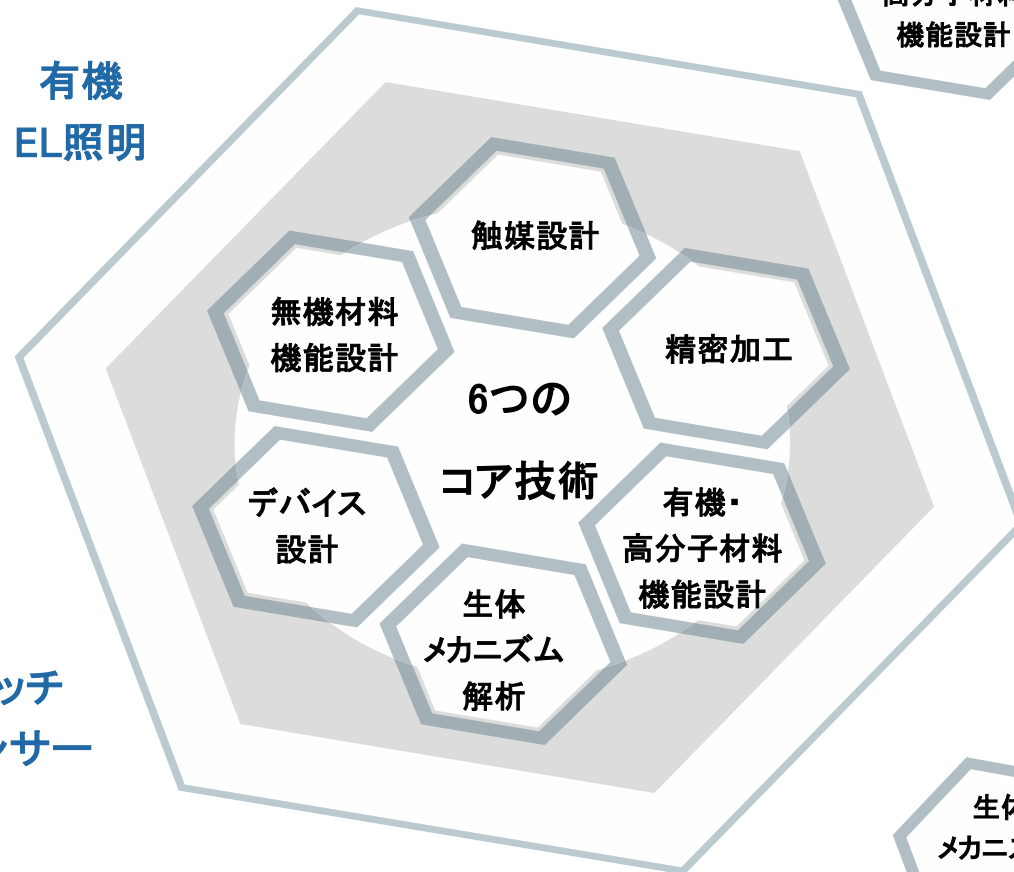
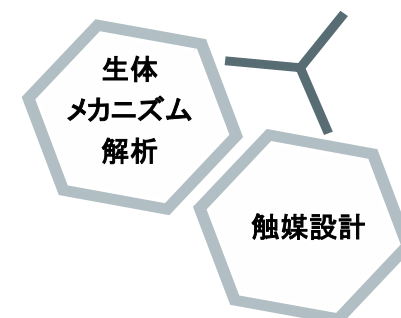
企業価値向上に向けた戦略的投資プロジェクト

総合化学路線を堅持(創造的ハイブリットケミストリー)

融合 耐熱
セパレータ



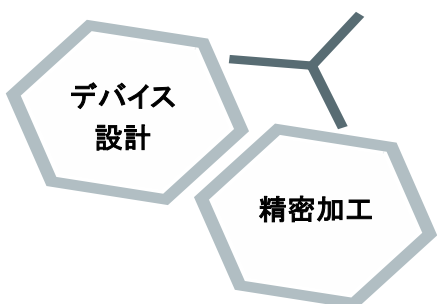
融合 農薬



融合 有機
EL照明



融合 タッチ
センサー

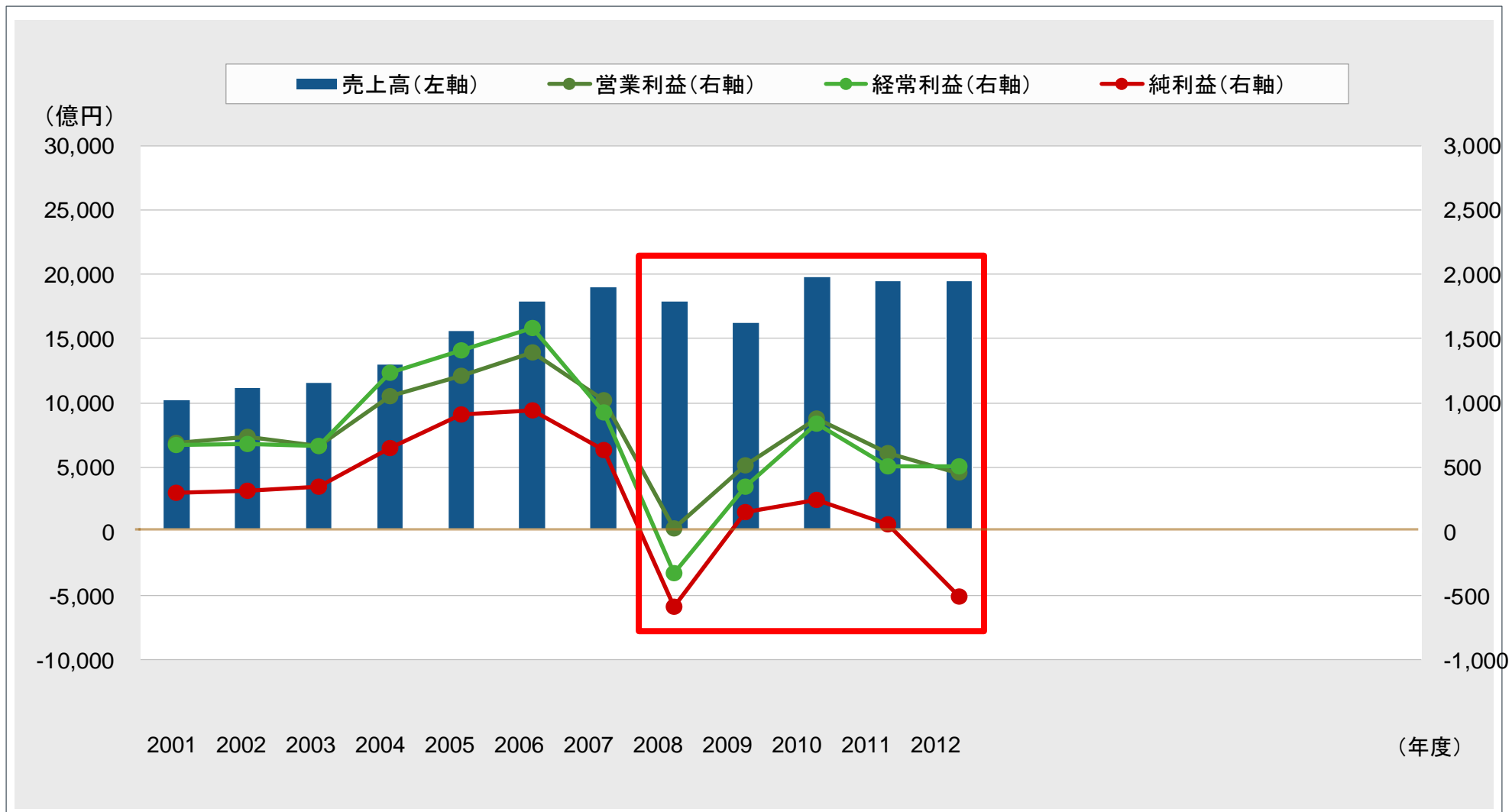


3つの大きな重点課題

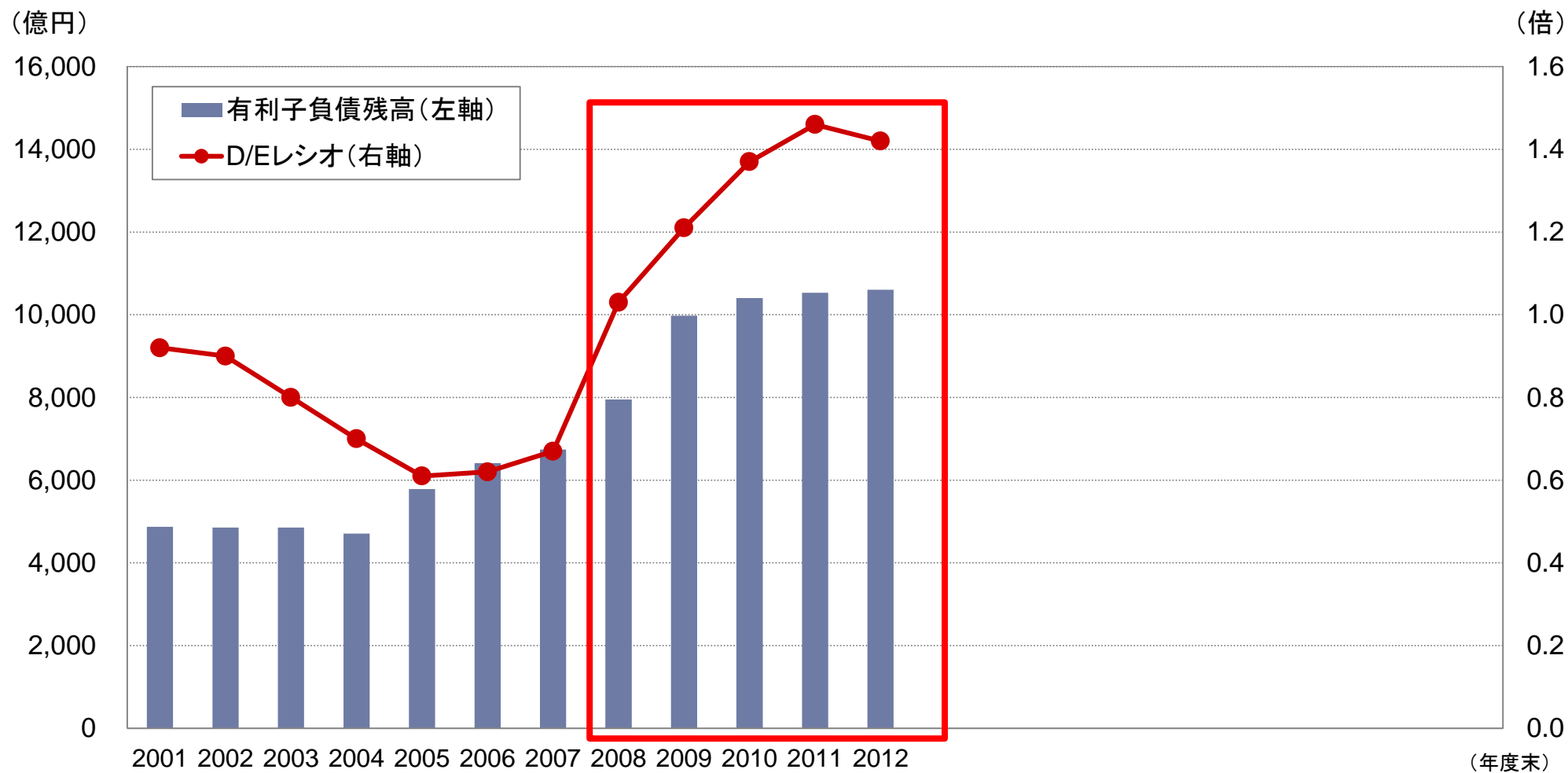


次の100年に向けた経営基盤づくり

業績推移



有利子負債とD/Eレシオの推移



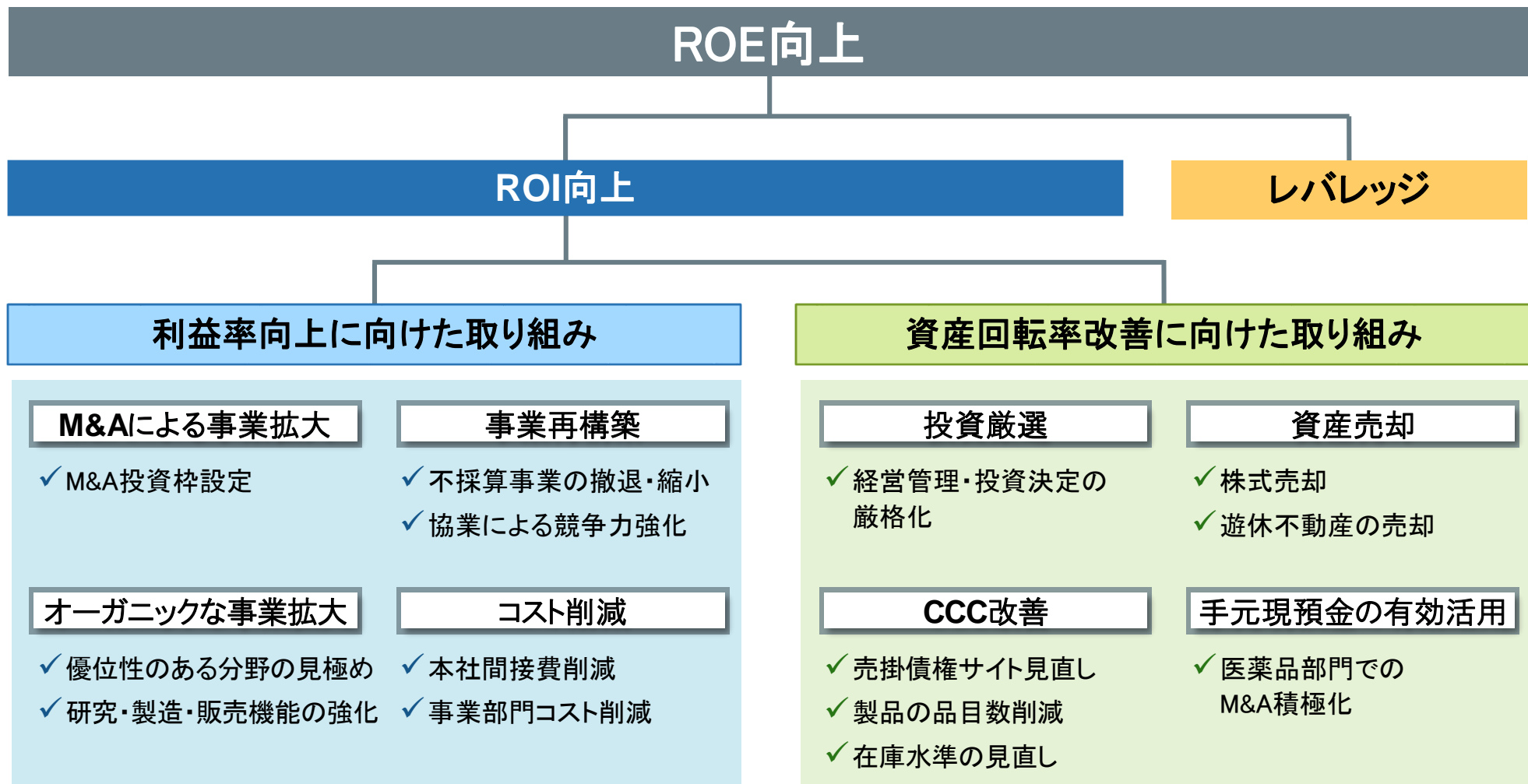
前中期経営計画(2013~2015)の概要



強固な財務基盤構築の概要



社内取組み① ROE向上の取組み



企業価値(ROI)向上に向けた取組みを深化

社内取組み② CCC改善の取組み(トップ主導)

取組みのポイント

- ◆ トップの強いコミットメントと指導力による推進
 - ◆ 全社一丸となった地道な積み重ねの徹底
- ※本取組みは現在も継続実施中。

多くの会議体で目標と結果をトップに報告

目標設定(年2回)

実績報告とアクションプラン(四半期毎)

棚卸資産残高と削減計画(毎月)

社長をはじめ、全取締役、
執行役員が出席。

社内取組み③ 100周年を契機にした取組み

2015年に開業100周年

「住友の事業精神」をはじめとした当社の原点の振り返りを実施

時代の変化への対応の軌跡

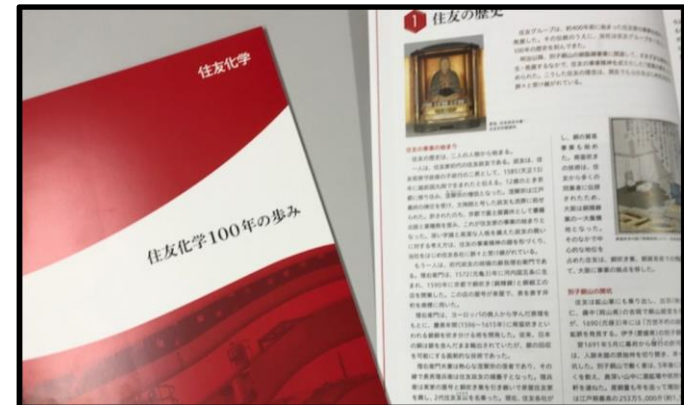
- ・開業から100年の間に、時代の変化に対応した戦略を実行。
- ・これからも時代の変化に対応した事業を展開。

守るべき事業精神

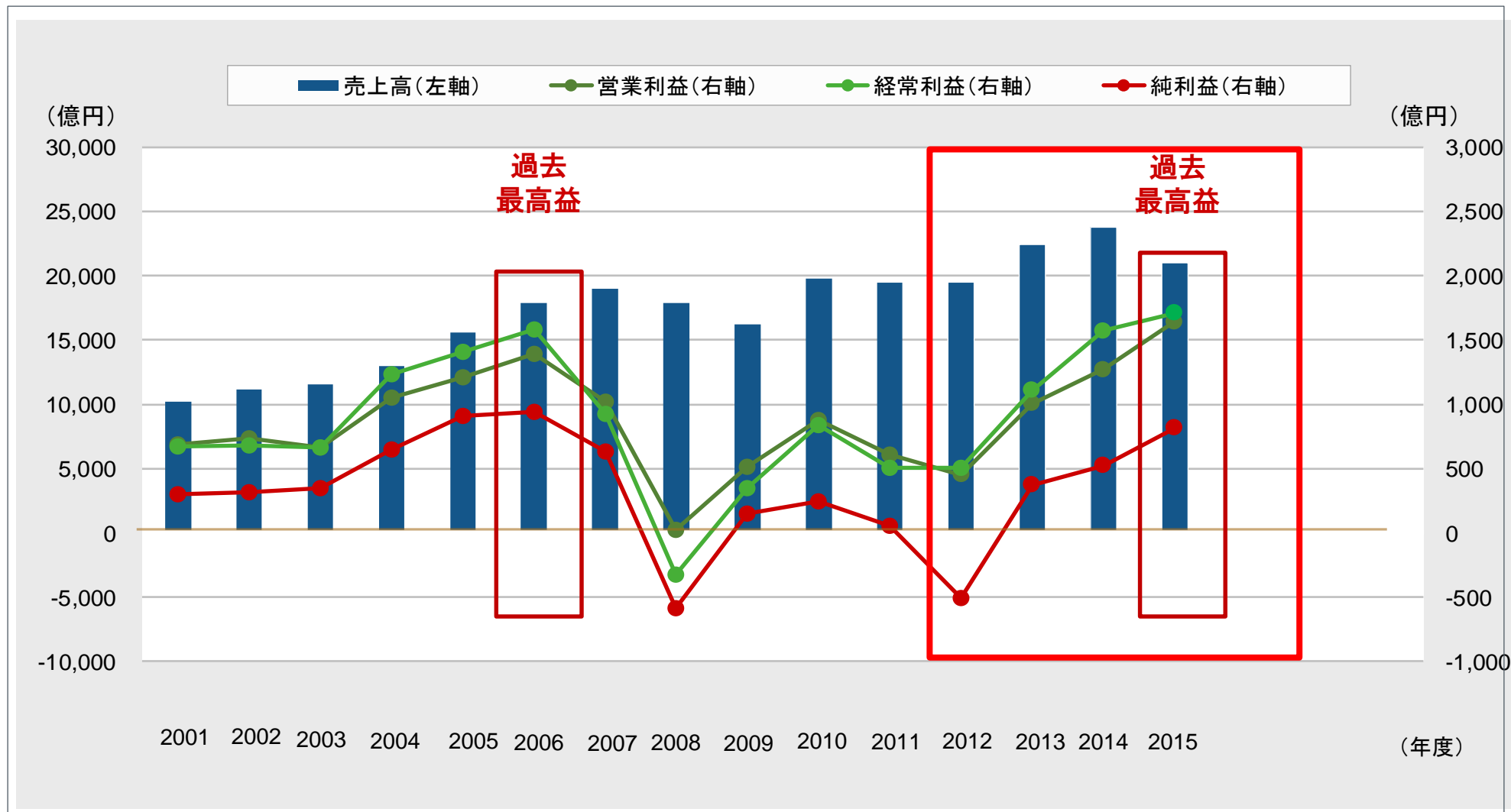
- ・社会の信頼に応えることを最も大切とする「住友の事業精神」が当社のDNA

100周年ダイジェストの発行

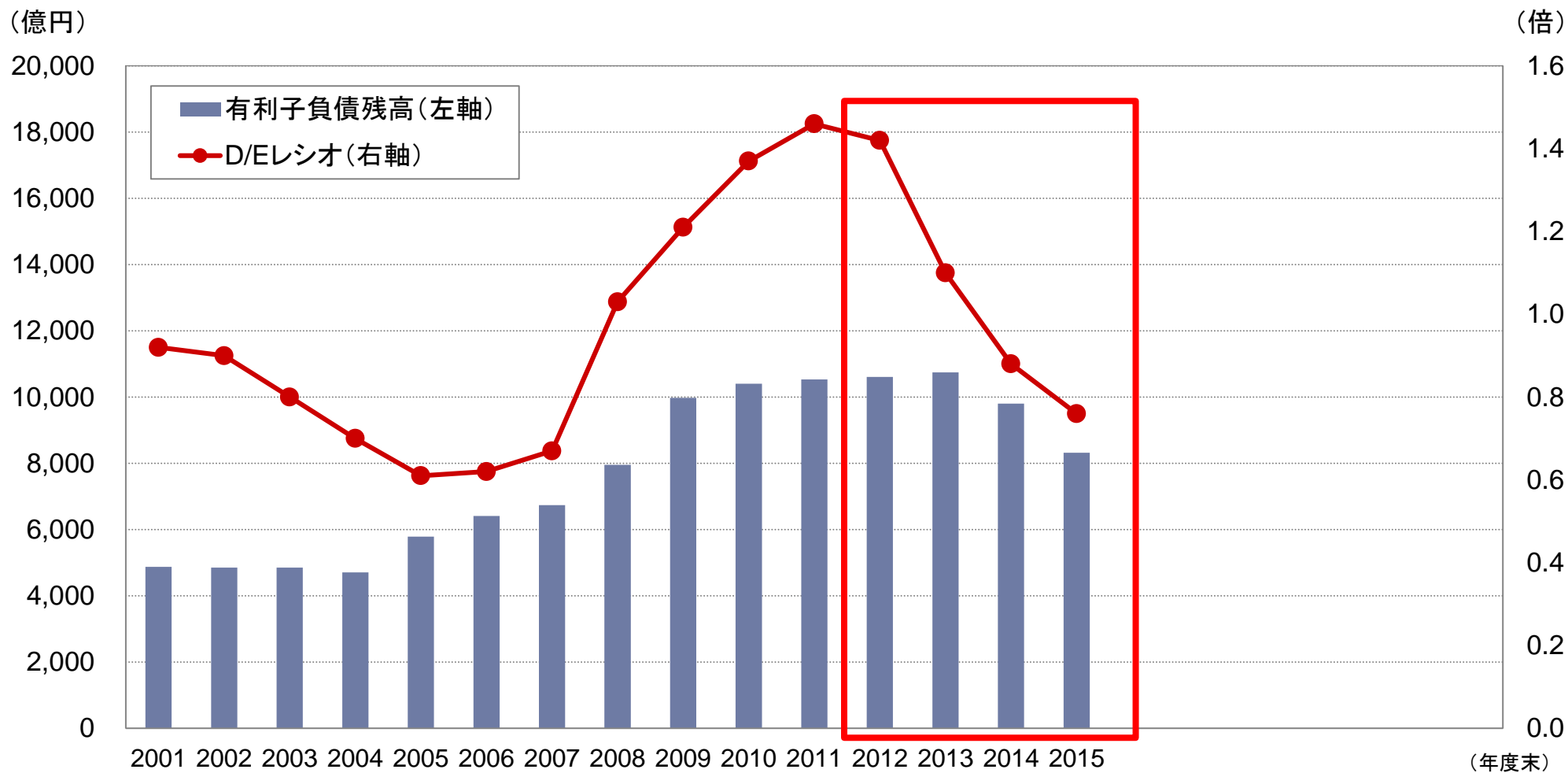
- ・5か国語(日、英、中(簡、繁)、韓)を発行。
- ・当社の100年史をビジュアルに編纂。海外を含めたグループ会社全員に配布。



業績推移



有利子負債とD/Eレシオの推移



成長戦略への回帰

住友化学のDNA

住友の事業精神

営業の要旨

第1条

わが住友の営業は信用を重んじ确实を旨とし、
もってその鞏固隆盛を期すべし。

第2条

わが住友の営業は時勢の変遷、理財の得失を計り、
弛張興廢することあるべしといえども、
いやしくも浮利にはしり軽進すべからず。

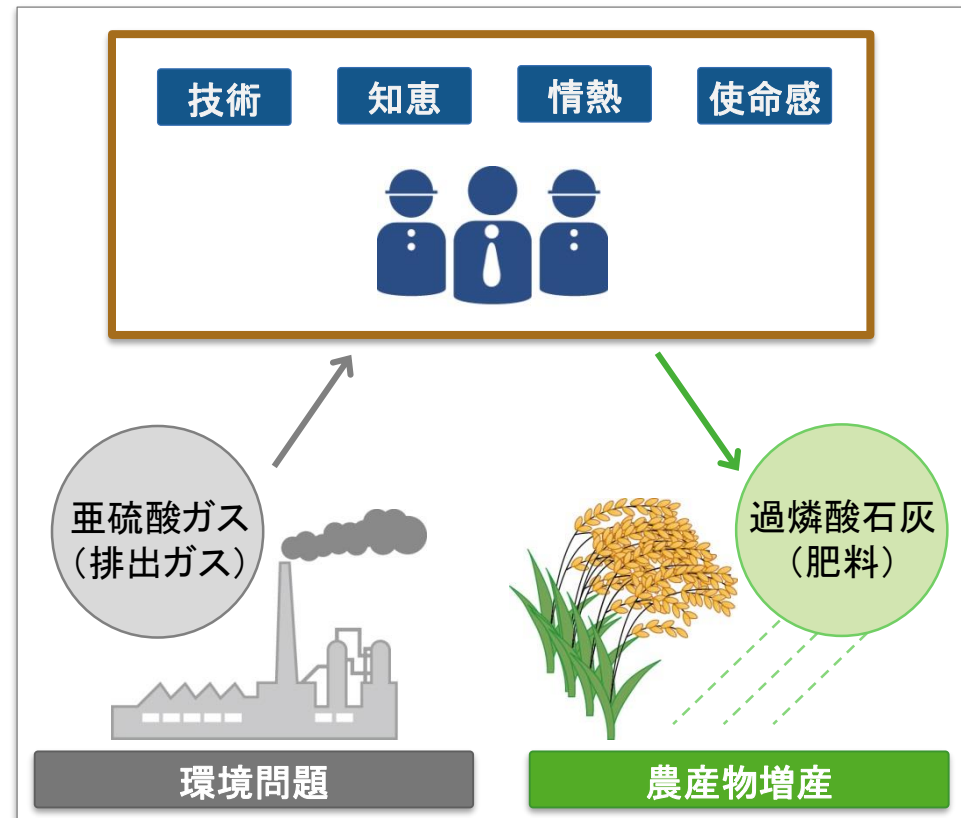
自利利他 公私一如

(じりりた こうしいちによ)

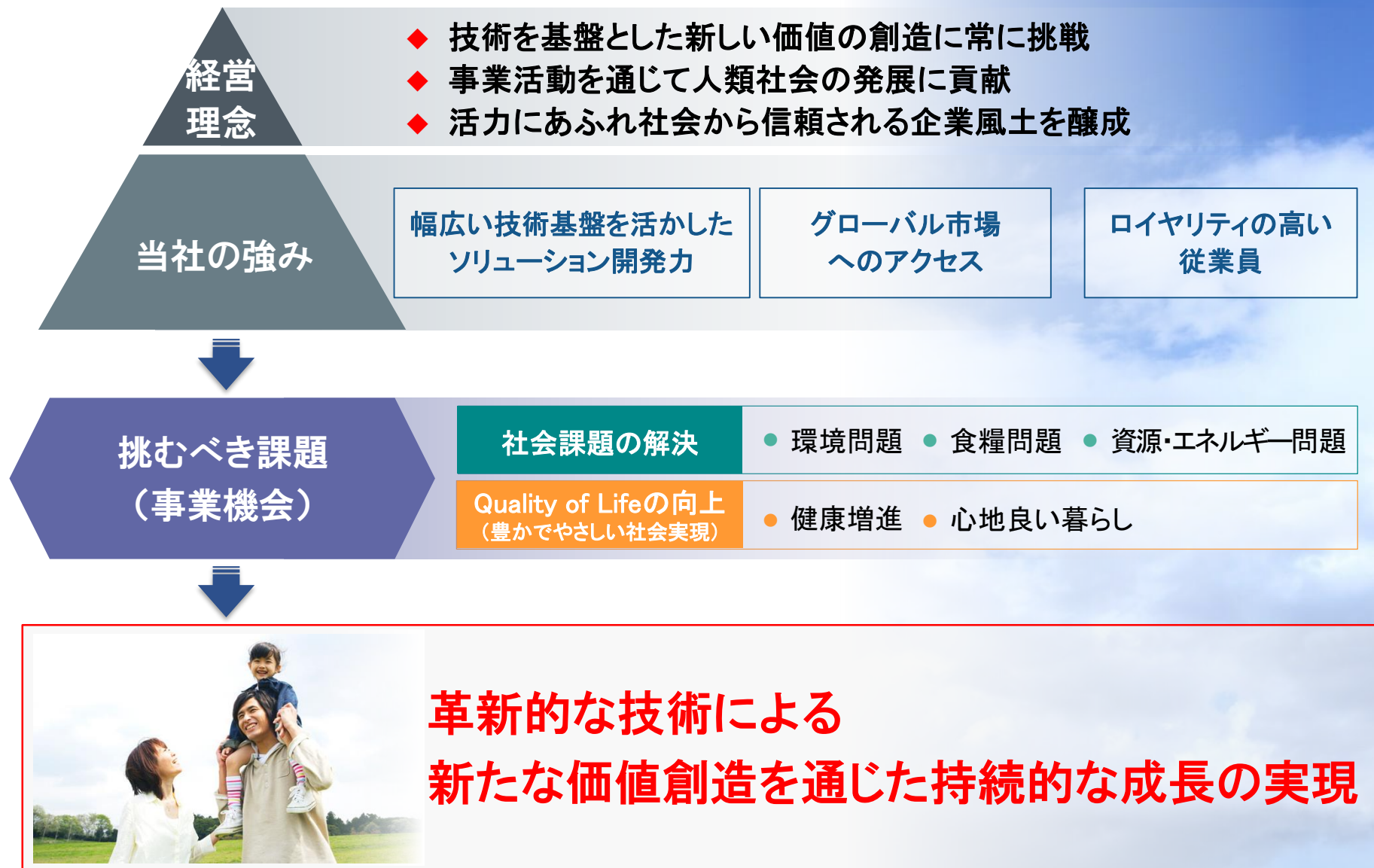
事業は自ら利益を得るものであるとともに、
社会に対しても利益あるものでなければならない

住友化学の始まり

1913年、銅の製錬の際に生じる有害な排出ガスから有益な肥料を製造し、煙害問題の解決に取り組み環境問題の克服と農産物の増産をともにはかることから誕生しました。



住友化学の目指す姿



現中期経営計画(2016-2018)の概要

事業ポートフォリオ
高度化

優位性のある
分野の見極め



経営資源の傾斜配分

※ 差別化が困難な分野では、コスト優位性・資産効率を追求

キャッシュフロー
創出力強化

超過収益※
の安定確保

規律ある積極投資

バランスシートの
スリム化

※ 超過収益: 資本コストを上回る収益

次世代事業の
早期戦列化

環境・エネルギー

ライフサイエンス

ICT

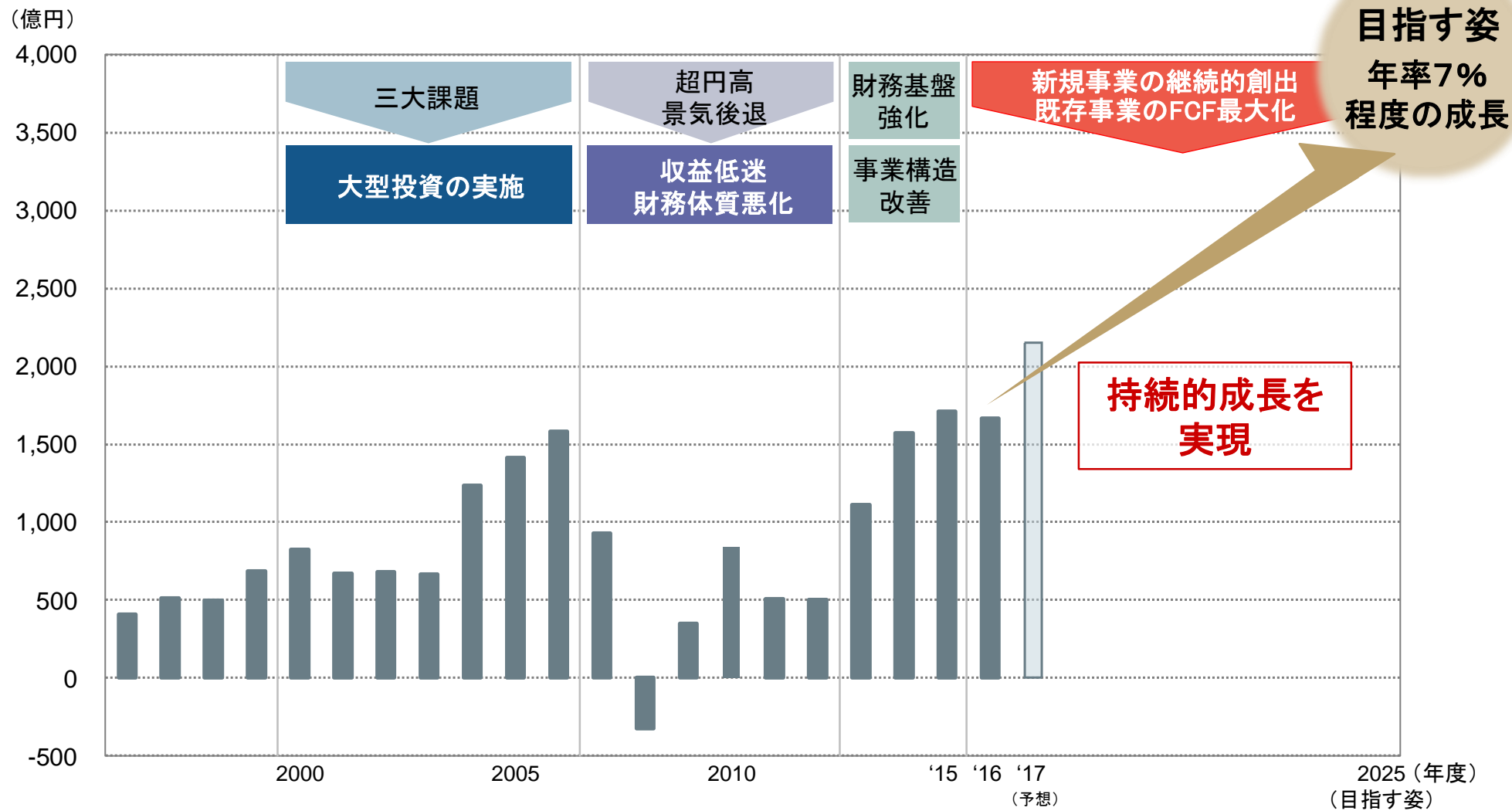
境界領域

グローバル経営の深化

コンプライアンスの徹底、安全・安定操業の確立と継続

10年後に目指す姿

経常利益の推移



住友化学の価値創造

当社の経営管理

1970年代頃

事業部別バランスシートを作成

- ✓ 事業部別に資産、負債を管理。

1994年

事業部門制の開始

- ✓ 機能別組織から、製造・販売・研究開発を一体化した組織(事業部門)へ変更。
- ✓ 各事業部門が一貫した方針のもとに事業を運営。

1999年

新業績管理制度の導入

- ✓ 連結決算主体の業績開示を開始。
- ✓ 資本コストを意識した経営管理を開始。

2004年

経済的付加価値による業績評価を開始

- ✓ 「事業の選択と集中」を進める上での業績評価指標として経済的付加価値の考えを導入。

企業価値向上に向けた仕組みの構築は40年以上前から実施してきた。

これからの住友化学の価値創造

拡大向上

以下の3領域と
それらの境界領域に経営資源を集中

環境・
エネルギー

ライフ
サイエンス

ICT

ROI向上

利益率
向上

資産回転率
改善

ESGへの取り組みの継続

環境

事業を通じて社会の
持続可能な発展に貢献

社会

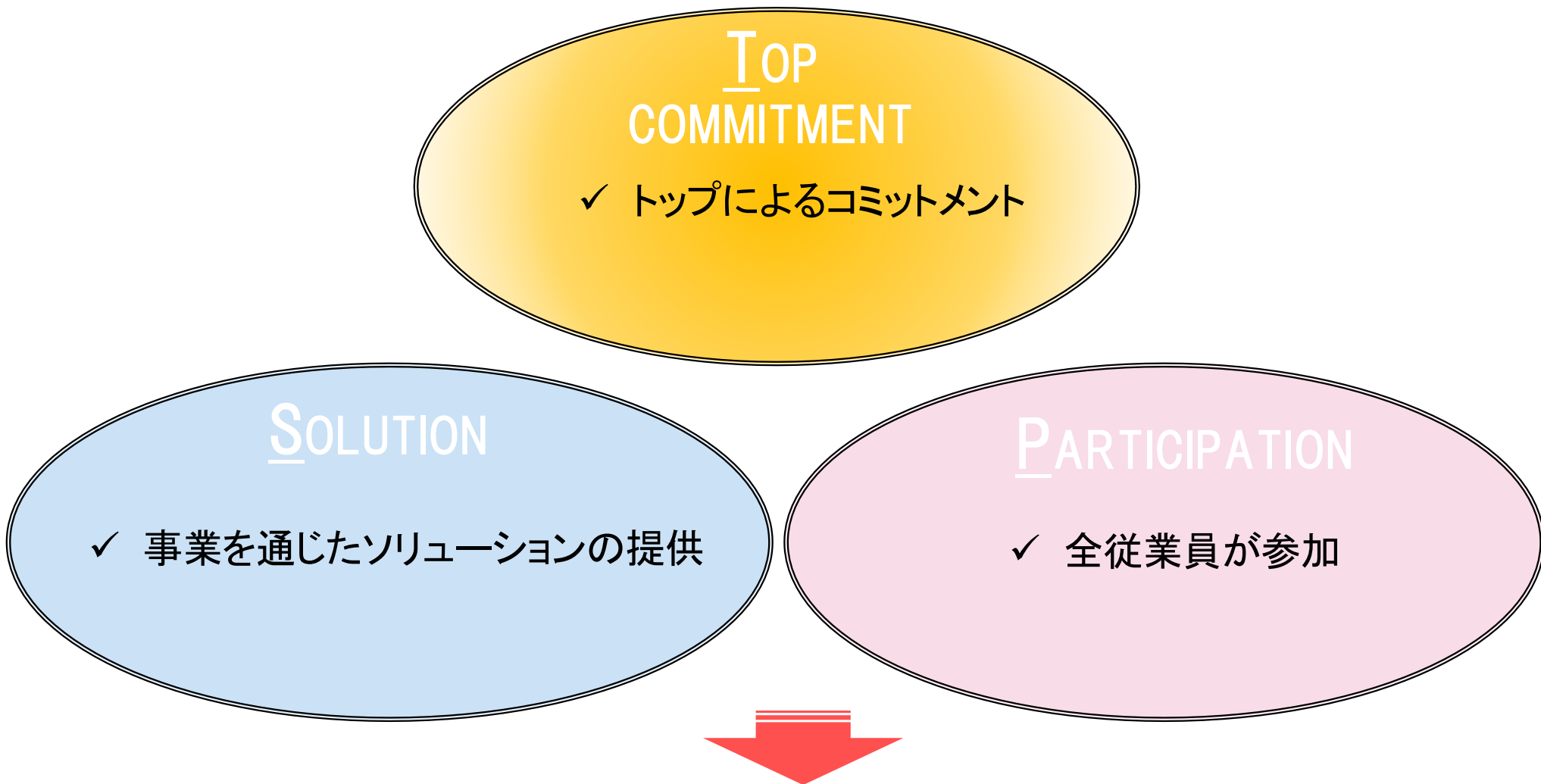
ステークホルダーとの
良好な関係を構築

ガバナンス

ガバナンスの
実効性を向上

持続的な価値創造の実現へ

社内の取組み① ESGの取組みの基本方針(TSP)



3つの考えをベースにESGの社内取組みを推進

社内の取組み② SDGs

各事業部門の「SDGs」

石油化学部門

7 エネルギーをみんなに
そしてクリーンに

9 産業と技術革新の
基盤をつくらう

12 つくる責任
つかう責任

**エネルギー・
機能材料部門**

7 エネルギーをみんなに
そしてクリーンに

13 気候変動に
具体的な対策を

8 働きがいも
経済成長も

情報電子化学部門

7 エネルギーをみんなに
そしてクリーンに

12 つくる責任
つかう責任

11 住み続けられる
まちづくりを

17 パートナリシップで
目標を達成しよう

**健康・農業
関連事業部門**

2 飢餓を
ゼロに

3 すべての人に
健康と福祉を

13 気候変動に
具体的な対策を

9 産業と技術革新の
基盤をつくらう

12 つくる責任
つかう責任

17 パートナリシップで
目標を達成しよう

SDGsバッジは全役員の胸に



出口副社長 (情報電子化学部門、有機EL事業化、デバイス開発センター)

【メッセージ】



革新的な新製品・技術を開発し供給することで、ICT産業の更なる発展を支えるとともに、人々のより豊かなくらしづくりに貢献していきましょう！

西本専務（健康・農業関連事業部門）

【メッセージ】



当部門は、様々な技術を活かし事業活動を通じて世界の「食糧」「健康・衛生」「環境」問題の解決に貢献していきます。製販研間各部署の業務がSDGs達成に貢献するという自信と自負を持って、各人が日々の業務に取り組んでいきましょう。



社内の取組み② SDGs

持続可能な社会の実現に向けて
私たちにできること
Our Sustainable Tree
サステナブルツリー
Things We Can Do to Build a Sustainable Society

「将来に希望が持てる社会を実現するために、社員自らが仕事や生活において何ができるか」を専用WEBにて投稿する試み

期間： 2017年6～10月の100日間
対象： 全グループ会社役職員
投稿件数：9,099件（終了時）

ご参考：環境白書に民間企業で唯一の掲載

環境省が毎年発行する「環境白書」の2017年版に、「SDGsを企業戦略に取り込む企業」として、民間企業では唯一取り上げられた。

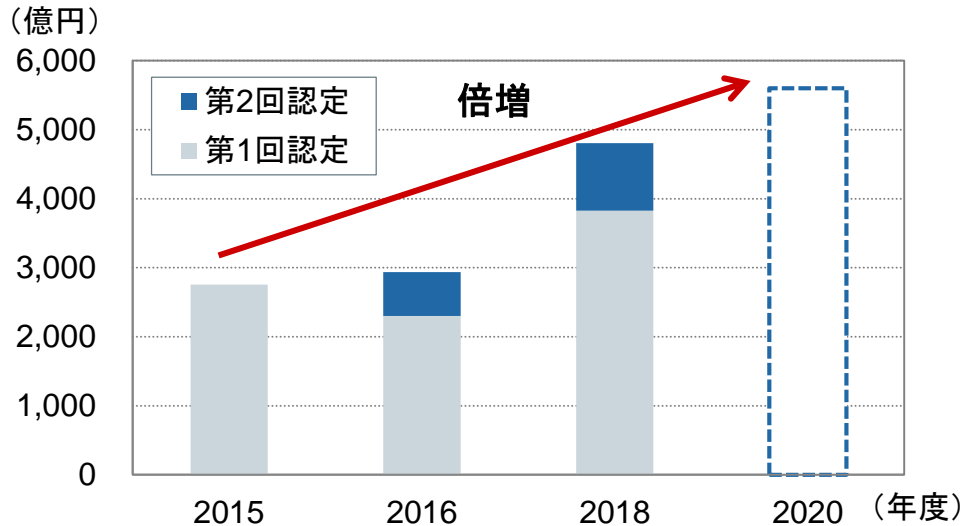
URL: <http://www.env.go.jp/policy/hakusyo/h29/pdf/gaiyou.pdf>

掲載: PDF 7ページ



社内取組み③ Sumika Sustainable Solutions

認定製品・技術の売上高



(ご参考)

認定委員会を実施(2017年5月)

13製品・技術を追加認定
(累計34製品・技術を認定)

認定製品・技術の紹介

1 電気自動車の普及に貢献

- リチウムイオン二次電池用セパレータ「ペルヴィオ®」



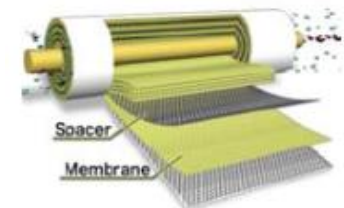
2 航空機の機体軽量化による燃費向上に貢献

- ポリエーテルサルホン「スミカエクセル®」



3 水素製造などのCO₂分離の大幅な省エネを実現

- CO₂分離膜



4 家畜排泄物中の窒素量を減らし温室効果ガスを低減

- 飼料添加物メチオニン「スミメット®」



持続可能な社会構築のためのソリューションを提供 ➡ 温暖化対策などに貢献

Creative Hybrid Chemistry



注意事項

本資料に掲載されている住友化学の現在の計画、見通し、戦略、確信などのうち歴史的事実でないものは将来の業績等に関する見通しです。これらの情報は、現在入手可能な情報から得られた情報にもとづき算出したものであり、リスクや不確定な要因を含んでおります。実際の業績等に重大な影響を与えうる重要な要因としては、住友化学の事業領域をとりまく経済情勢、市場における住友化学の製品に対する需要動向、競争激化による価格下落圧力、激しい競争にさらされた市場において住友化学が引き続き顧客に受け入れられる製品を提供できる能力、為替レートの変動などがあります。但し、業績に影響を与えうる要素はこれらに限定されるものではありません。